

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名 称：「COVID-19 とオープンサイエンス」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

・企画：オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会

3 開催日時：令和 2 年 6 月 3 日（水） 10 時 30 分～16 時 30 分

4 開催場所：オンライン開催

5 開催趣旨：

学術の成果をオープン化して広く共有することにより、研究の進展を加速し、学術的知見の導出の拠り所となる研究資料・データと研究成果の再現性を高めることを目的とした「オープンサイエンス」の方向性が世界的に注目されている。世界的なウイルス感染の拡大の中、オープンサイエンスの深化と推進の方向性を議論し、新しい科学の推進の在り方を問う。

6 参加人数：

講演者等：11 名

その他の参加者：778 名（WebEX への接続者）

91 名（Youtube 視聴者）

7 特記事項：

本学術フォーラムは、令和 2 年 6 月 3 日に発出された提言「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」のポイントを、科学者だけでなく広範囲の参加者に理解を得て、COVID-19 を受けた各分野の取り組みを踏まえて、市民に理解を促すとともに、新しい取り組みのあり方を議論する機会を求め、実施した。ウイルス感染拡大の中、完全オンライン形式で開催し、Web 会議システム WebEX と配信システム Youtube により、公開した。府県を跨がった移動が制限される中、全国から多くの参加者を得、従来のフォーラム形式では参加できない遠方の参加者にも、参加の機会を創出したことは特筆に値する。また、またメディアによる取材は、フォーラムへの遠隔参加として行い、読売新聞、朝日新聞社、毎日新聞、日本経済新聞社、産経新聞社、東京新聞、京都新聞社、NHK、TBS テレビ報道局、日本テレビ、共同通信等の参加を得たことは、高い注目を得たことを顕している。今後の報道が待たれる。

※ 「特記事項」欄には、下記のようなことで、当該学術フォーラム開催による成果として特記すべき事項があれば、簡潔に記載。また、『学術の動向』への関連記事の掲載を行う場合、その旨を併せて記載

①メディアによる取材・報道等の状況

②委員会等の審議活動（意思の表出を含む。）への反映

③共同主催団体等における事後の取組

※ 記載はA4用紙で1枚以内とし、その他必要があれば関連資料等を添付